

# インフルエンザ予防接種説明書【小児用】

～接種を受ける前に必ずお読みください～

## 1 感染症の性質

インフルエンザは、「インフルエンザウイルス」に感染して発症します。38℃以上の発熱、頭痛や関節・筋肉痛など全身倦怠感等の症状が急に現れ、高齢の方や種々の慢性疾患がある方は肺炎を伴うなど重症化することがあります。

## 2 インフルエンザワクチンとは

インフルエンザワクチンには不活化ワクチン(注射)と経鼻生ワクチン(フルミスト)の2種類があり、接種方法が異なりますが、いずれのワクチンも予防効果が認められています。

日本では、インフルエンザは例年12月～4月頃に流行し、1月末から3月上旬に流行のピークを迎えますので、12月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられます。

### (1)不活化インフルエンザワクチン(注射)

従来 of 注射によるワクチンです。

お子さまの接種年齢により接種回数が異なりますので接種前にご確認ください。

### (2)経鼻弱毒生インフルエンザワクチン(フルミスト)

インフルエンザワクチンを弱毒化した生ワクチンで、各鼻腔に噴霧します。

令和5年3月に 薬事承認され、令和6年度から接種が行われています。

## 3 ワクチンの有効性

### (1)不活化インフルエンザワクチン(注射)

感染を完全に阻止する効果はありませんが、発病を一定程度予防すること、発病後の重症化の予防などに効果があるとされています。乳幼児のインフルエンザワクチンの有効性に関しては、報告によって多少幅がありますが、概ね20～60%の発病防止効果があったと報告されています。

### (2)経鼻弱毒生インフルエンザワクチン(フルミスト)

ワクチンを各鼻腔内に噴霧し、粘膜免疫を誘導することで高い感染予防効果が期待されます。薬事承認の臨時試験でも一定の有効性が確認できると評価されています。

## 4 予防接種の副反応と注意点

この説明書に書かれたワクチンに関する内容をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。気にかかることや分からないことがありましたら、予防接種を受ける前に主治医におたずねいただき、十分に納得の上接種を受けてください。